

障害者の声 伝え続け20年

定期刊行物発行のHSK

心身に障害を持つ人や難病と闘っている人たちにあって、生活する姿や悩みを地域の人々に知らせ、理解を得るのは大切なことだ。定期刊行物の発行はそのための重要な手段の一つ。発行部数の少ない団体でも安い第三種郵便料金が適用できるようにと北海道身体障害者団体定期刊行物協会(HSK)が設立されて、今年で二十周年を迎え活動状況を振り返ってきた。

「例えばB5判で二十枚の冊子を送ろうとすると一部六十二円かかるが、第三種郵便の認可を受けた障害者や難病患者の団体などが発行するものは二十五円で済む。だが認可は条件が厳しく、人手不足や経済的問題を抱えることの多いこれらの団体個々では難しい。それを解消するためにHSKが生まれた」と発行人の細久美子さんは話す。

自立手助け 大きな役割

通常の郵便(第一種)の場合、五十枚までの料金は定型で七十二円(二十五枚までは六十二円)、定形外は百二十円。第三種の認可を受けると、障害者団体などが発行する場合、五十枚までで新聞紙と八円、それ以外では十五円と済む。

障害者団体などが認可を受けるには、新聞紙で月二回以上、そのほかで月一回以上発行し、発行部数も五百部以上なくてはならない。そこで、



HSK発行の定期刊行物。障害者や難病患者らの生の声が詰まっている

各団体が編集した刊行物をHSKが取りまとめて発行するという形を取ることで、郵政

省の認可を得た。HSKは、新聞紙以外の刊行物に対して認可されている。加盟団体は現在七十五、毎月発行している団体もあれば年に一回という団体もある。

発行部数も五十部前後から三千部以上とさまざまある。細川さんは「発足後十年くらはい二十団体程度で、身体障害者団体を中心とした。国連の障害者の十年をきっかけに、特に知的障害者の団体が

覗いたんぼは共同作業所(中田玲子所長)は「たんぽぽ」を隔月で、毎月百三十部発行している。作業所のメンバーから編集部員を六人選び、原稿の依頼から編集、製本まで行っている。

指導員の諸橋味左子さんは「寄せられた原稿は手直しをせず、メンバーの生の声が伝わることを第一に考えている」という。

目下の悩みは作業所にワープロがないこと。今は一人の

加盟 75 団体に

近く事務局設置

に加盟団体の代表者が事務局を作った。障害者施設や病院も入っている。今は個人で協会を運営しているが、近いうち

増えた。障害者施設や病院も入っている。今は個人で協会を運営しているが、近いうち

編集部員が私有的ワープロを使って作っている。「作業所に一台でもあれば一人だけにかかっている負担を軽くできる。そのうえ、メンバーのランティアらが動き、自立できた例もあるという。「いろいろな障害者から手紙をもらい、その人たちの元気づける橋渡しになればと思う。自分たちの活動をもっと書き込め、いすは本にしたい」と、小山内さんは抱負を語っている。

HSKへの加盟をまだというの問い合わせはT0600札幌市中央区北九西一九ノ五五 北海道身体障害者団体定期刊行物協会 011-622-5190 へ。